

±EF 露出補正の使い方

±0.0 [補正なし]



+2.0 [+側に補正]



±0.0 [補正なし]

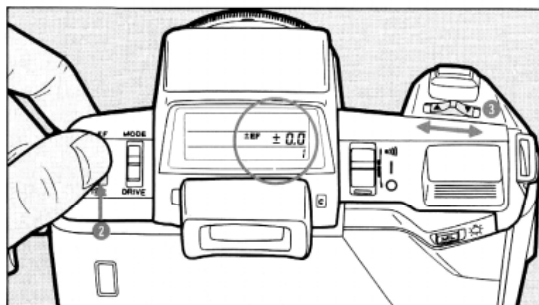


-2.0 [-側に補正]



47

±EF [露出補正の使い方]



露出補正は、自動露出で撮影するときに、写真の画面全体を意図的に露出オーバー[明るい写真]や露出アンダー[暗い写真]にしたいときに使用します。下表「撮影例」のときなどに、ご利用ください。

②のレバーを **±EF** 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを動かして、希望の補正値を出します。

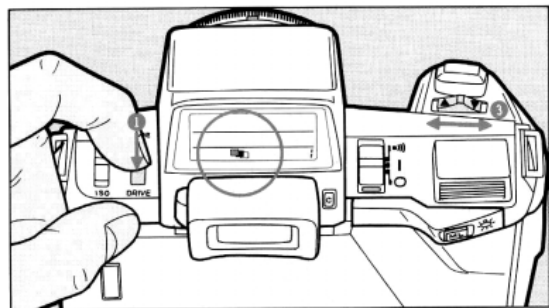
撮 影 編	露出補正量
逆光撮影 空の多く入った風景撮影 雪上の人物撮影 空が背景に入った人物撮影	約+1.0～+4.0
背景が暗い撮影 舞台撮影・夜景	約-1.0～-4.0



調整範囲は、[+4～-4]の0.5EVごとに行えます。露出補正中は、表示パネルの **±EF** が点滅します。また、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内の **±EF** も点灯します。使用後は、忘れないうちに **±0.0** に戻してください。

- **C** ボタンを押すと、**±0.0**に戻ります。
- ペンタックス・専用オートストロボ撮影のときも露出補正が働きます。
- マニュアル露出は、シャッター速度や絞りを調節した方が便利です。

▲ [左へ]	→	▼ [右へ]		
+4.0EV	～	±0.0	～	-4.0EV
[0.5EVごとに表示]				



オートブラケットは、自動露出のときに、露出補正が必要な被写体[写したい物]で補正を決めにくいときなどに、3コマ「連続撮影」の段階露出をします。

- ①のレバーを **DRIVE** [ドライブ] 側に押したまま、
 - ③の **▲▼** レバーを動かして **[]** 表示を出します。
±EF が点滅して、露出補正中を知らせます。
 - ②のレバーを **±EF** 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを動かして、希望の補正值にします。
- 最初は、 $\pm 0.3\text{EV}$ に設定されていますが、 $\pm 0.5 \sim \pm 4.0\text{EV}$ までは、 0.5EV ごとに設定できます。

露出補正

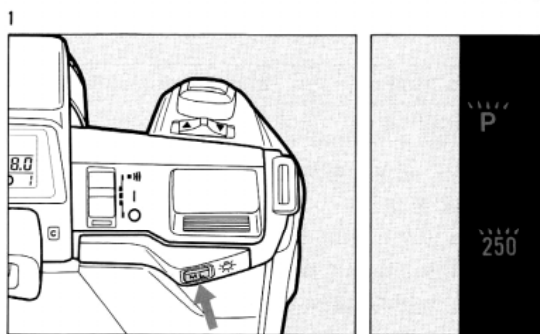
1コマ目	2コマ目	3コマ目
± 0 [露出計による]	アンダー露出	オーバー露出

シャッターボタンを押している間は、3コマ「連続撮影」ができます。

1回シャッターを切った後[1コマ目撮影後]シャッターボタンを軽く押した状態に戻すと **[]** が点滅して、次ぎの撮影を待機しますので、シャッターチャンスを待つことができます。なお、シャッターボタンから指を離すと **[]** が2秒間点滅した後、「オートブラケット」は解除されます。

- 3コマ連続撮影は、毎コマ「露出制御」を行いますので、周囲の明るさの変化に対応した3段階の撮影ができます。
- ピント合わせは、1コマ目の撮影位置で「フォーカスロック」されます。また、作動中はファインダー内の露出表示は出ません。
- ストロボ撮影での使用はできません。
- **[M]** [マニュアル]露出、**[125]** [1/125秒]、**[bulb]** [バルブ]のときは使用できません。
- **[]** [オートブラケット]と **[ML]** [メモリーロック]を組み合わせで使用できます。
[詳しくは、50ページをご覧ください。]

49

ML メモリーロックの使い方

メモリーロックは、自動露出のときに、撮影前の露出情報をカメラへ一時的に記憶させるもので、露出補正の一方法です。

逆光や背景に明るい空などが多く入るような状態での人物撮影、あるいは逆に背景が暗いときの人物撮影などにご利用ください。

照明ボタン

[ML] [メモリーロック]ボタンは、照明ボタンと兼用になっています。ボタンを一回押すと、表示パネルが約8秒照明されます。
暗い所などでのご操作にご利用ください。

2 ●メモリーロック使用



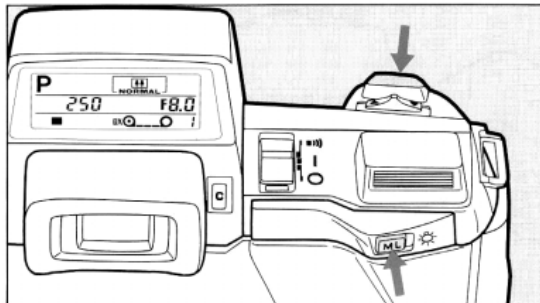
1. 人物の顔などをファインダーいっぱいに入れて、**[ML]** ボタンを押します。押している間は顔の明るさに合った露出が記憶されます。
2. 写真のように、メモリーロックを使って希望の構図に戻して撮影すれば、人物が適正露出になります。

- メモリーロック中は、ファインダー内の露出表示が速い点滅で知らせます。
- **[ML]** ボタンから指を離すと記憶は、解除されます。

●メモリーロックなし



※



※メモリーロック中にシャッターボタンを軽く押し続けると、**ML** ボタンから指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。シャッターを切るとメモリーロックは、解除されます。

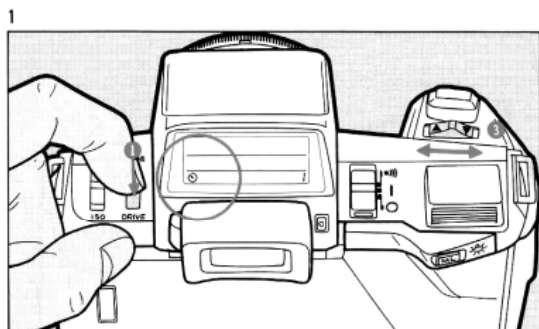
 [オートブラケットティング] と **ML** [メモリーロック] を組み合わせて使うときは、オートブラケットティングに合わせてから、メモリーロックで撮影します。

メモリーロックで記憶した、写したい被写体の明るさを基準に3コマ「連続撮影」ができます。

- メモリーロックを使うときは、被写体に近づいたり、ズームレンズのときは望遠側にしてご利用ください。
- マニュアル露出でも、**ML** ボタンを押すと、ファインダー内のシャッター速度の表示は固定され、表示が点滅します。

51

 セルフタイマー撮影

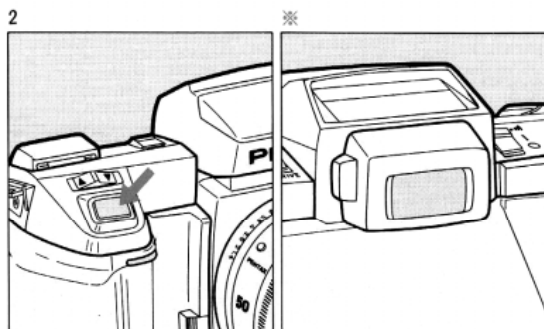


セルフタイマーは撮影者も入って記念撮影などをするときに使う、タイマー撮影です。

1. ①のレバーを **DRIVE** [ドライブ] 側に押したまま、③の  レバーを動かして、 の表示を出します。

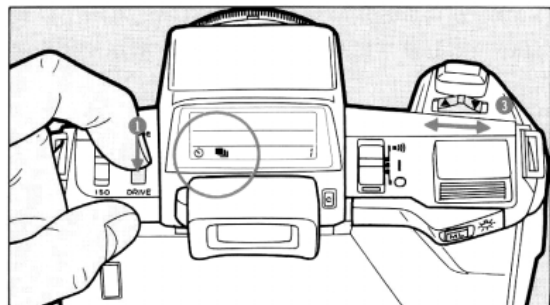
2. 写したいものにピントを合わせたまま、さらにシャッターボタンを押すと、約12秒後にシャッターが切れます。

- スイッチを  に合わせておくと、セルフタイマーの作動中はセルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピピピ」になります。



※ファインダー窓から目を離して自動露出で使うときはファインダー窓から入る光りのために露出不足になることがあります。セルフタイマーを使うときは、ホットシューカバーを取り外して、アイカップFの内側にはめ込んでご使用ください。

- セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、スイッチを  にして、電源を切るとセルフタイマーは解除されます。なお、スイッチを  か  に入れ直すと、 [1コマ撮影] になります。
- C** ボタンを押しても、 [1コマ撮影] になります。



トリプルセルフタイマー撮影は、シャッターボタンを押した後、12秒後に3コマ「連続撮影」ができます。記念撮影などで、ポーズを変えた写真が3枚写せます。

①のレバーを **DRIVE** [ドライブ] 側に押したまま、③の **▲▼** レバーを動かして **🕒** の表示を出します。

シャッターボタンを押すと、約12秒後に1コマ目のシャッターが切れた後、2コマ目・3コマ目は2秒間隔でシャッターが切れます。

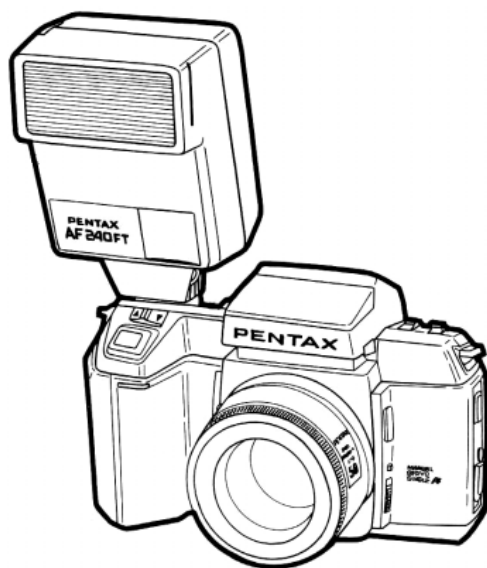
連続撮影は次の順でシャッターが切れます。

1コマ目	2コマ目	3コマ目
12秒後	2秒後	2秒後

- ピント合わせは、1コマ目の撮影位置で「フォーカスロック」されます。
- 3コマ「連続撮影」後は、**■** [1コマ撮影]になります。
- ストロボ撮影のときは、ストロボの充電完了を確認してから、セルフタイマーを作動させてください。
[2コマ目と3コマ目は、ストロボが充電完了してから、2秒後に発光します。]
- ストロボの充電時間が約7秒を超えるときは、セルフタイマーは解除されます。
- 内蔵ストロボとペンタックス・専用オートストロボを組み合わせての増灯撮影はできません。
- 内蔵ストロボと別売りの「ケーブルスイッチF」を使うときは、スイッチFのリリースロックは使わないでください。1コマ目を撮影した後、**■** [1コマ撮影]に解除されます。
- 🕒** [セルフタイマー]や**🕒** [トリプルセルフタイマー]のときは、**bulb** [バルブ]は使用できません。

53

ペンタックス・専用オートストロボの使い方



他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をおすすめします。

SFX_Nが自動露出やマニュアル露出になっていればいつでも簡単に専用オートストロボが使えます

専用ストロボ撮影の手順

1. カメラの「ホットシューカバーF」を外して、ストロボを取り付けます。
2. ストロボをTTLオートまたは、外光オートに合わせます。
3. ストロボの電源スイッチを入れます。

- ストロボの充電完了確認は、ストロボの充電完了ランプでできますが、シャッターボタンを軽く押すと、ファインダー内の **🔋** が光ります。
表示パネルには、ストロボ同調のシャッター速度が表示されます。
- シャッターボタンから指を離すと、約5秒後に **🔋** と「シャッター速度」の表示も消えます。
- SFX_N には、右表のように豊富な機能を持った、専用ストロボ「AF400FTZ」や「AF240FT」をご利用ください。

SFX _N の機能	SFX _N 内蔵ストロボ	AF400FTZ AF240FT	AF400T AF280T	AF200T AF080C	AF200SA AF140	AF200S AF160
ストロボの充電完了時、シャッターボタンを軽く押すとファインダー内の  が光ってシャッター速度が自動的にストロボ同調速度に切り替わります。	○※ (60・125)	○ (60・125)	○ (125)	○ (125)		
絞りがAのときは、絞りは自動的に合わせられます。	○	○	○	☆		
オートストロボが正常に働いたときは、ファインダー内の  が発光後に点滅表示します。		○	○			
ストロボの発光量は、撮影中のフィルム面光量を測定しながら自動的に調節します。[TTLオートストロボ]	○	○	○			
マニュアル露出のときは、1/125秒以下の低速シンクロ撮影が可能です。	○	○	○	○		
暗い所ではAFスポットビームが発光します。	○	○				
先幕・後幕シンクロ撮影の切り替えができます。		○				

- 旧タイプの「AF140」・「AF160」・「AF200S」は、ストロボで決められた絞りに合わせて使用してください。
- ストロボが不要な程度に明るい所では、オートストロボに切り替わっていてもストロボが発光しないこともあります。
- ※印は充電完了時に、ファインダー左横の赤ランプが光ります。
- ☆印「AF200SA」は自動的に合わせられます。

TTLオートストロボ

SFX_N の内蔵ストロボやペンタックス・専用TTLオートストロボを使ったときは、レンズを通してフィルム面に当たる光の反射を直接測光し、適正露出となるように、測光回路がストロボの発光量を自動的に調節します。被写体からの反射光だけを測るため、正確な露出が得られます。

TTLオート・外光オートストロボの使い方

TTLオートストロボの使い方

プログラム自動露出・シャッター優先自動露出

- SFX_N 専用の「AF400FTZ」や「AF240FT」は、内蔵ストロボと同様、被写体の明るさに応じてシャッター速度や絞りが自動的に切り替わるので、日中シンクロ撮影も簡単にできます。詳しくは、ストロボの説明書をご覧ください。
- 従来の「AF200T」・「AF280T」・「AF400T」・「AF080C」では、充電が完了すると、ストロボ同調速度の1/125秒と絞りF4[ISO 100のとき]に切り替わりますので、日中シンクロ撮影には、おすすめてできません。
[AF080CはF8・ISO 100のとき]

- ISO 100では自動的にF4になります。このとき開放F値が変化するズームレンズ[F3.5〜F4.5]をF4.5側で使うと露出不足になる場合がありますのでご注意ください。

絞り優先自動露出・マニュアル露出

- レンズの絞りを、希望の絞りに合わせます。
- 充電が完了すると、1/125秒に切り替わります。

外光オートストロボの使い方

プログラム自動露出・シャッター優先自動露出

- 「AF200SA」・「AF200T」・「AF280T」・「AF400T」などは、スイッチをオート[赤・緑・黄]位置に合わせます。
- 充電が完了するとシャッター速度は、1/125秒になり、絞りは下表のように切り替わります。

	ISO 100のとき		
	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄	—	—	F11

[AF200SAは、オート専用機でISO 100のときF4になります]

- 表のようにISO 100で「AF280T」の赤を使うと自動的にF4になります。このとき開放F値が変化するズームレンズ[F3.5〜F4.5]をF4.5側で使うと露出不足になりますのでご注意ください。

絞り優先自動露出・マニュアル露出

- ストロボのオート[赤・緑・黄]に合わせます。
- レンズの絞りは、ストロボの計算盤で指定された絞りに合わせます。
- 充電が完了すると、1/125秒に切り替わります。

TTL・外光オートストロボの共通な使い方

SFX_Nのマニュアル露出では、シャッター速度を1/60秒～1秒の範囲内に合わせると、低速シンクロ撮影ができます。

シャッター速度は、 レバーで希望の速度を選びます。

低速シンクロ撮影

夜景などを背景にして、近くのものや人物にストロボをあてるとき、通常にストロボ撮影をすると背景が暗くなってしまいがちですが、シャッター速度を低速にしてストロボを発光させると、背景の様子もバランス良く写し込むことができます。

- シャッター速度を 1/4000～1/250 秒にしているときは、充電が完了すると、1/125秒に切り替わります。

[オートチェック]表示

TTL・外光オートストロボが適正な発光をするとストロボ発光後に、ファインダー内の  が点滅して、ストロボ撮影の完了を知らせます。

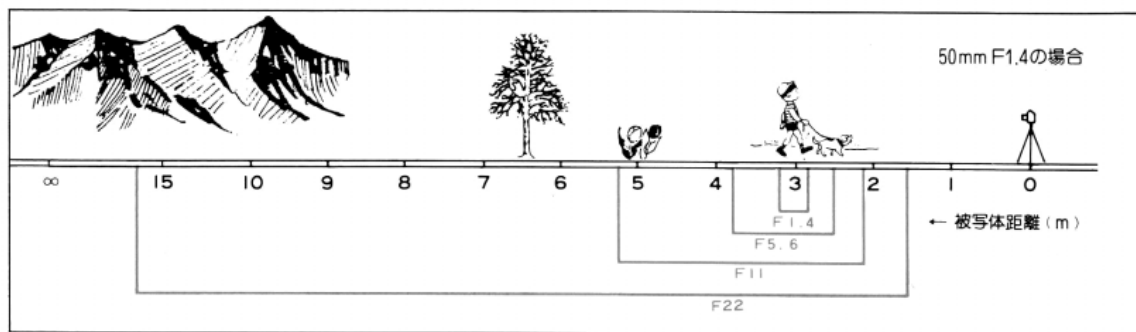
- 「AF200SA」には、この機能はありません。

専用ストロボ使用上の注意

- ストロボのMS[マニュアルシンクロ]、M[マニュアル]では、ストロボで決められた絞りで使用してください。
絞りを  にしたときは、適正露出が得られません。また、ストロボの種類によっては、MS、Mの機能が異なる場合がありますので、ご使用のストロボの使用説明書をご覧ください。
- TTLオートや外光オートストロボで、増灯撮影をするときは、内蔵ストロボとペンタックス専用ストロボを組み合わせて増灯撮影ができます。ストロボ機能はホットシューに取り付けたストロボが優先します。撮影のときは、各ストロボの充電完了を確認して行なってください。
-  [バルブ]使用でも、TTLオートや外光オートストロボの撮影は可能です。
- AF080Cリングライトをホットシューの上に取り付けるときは、別売りのホットシューアダプターFを用いるとシャッターボタンの操作が楽になります。

57

被写界深度

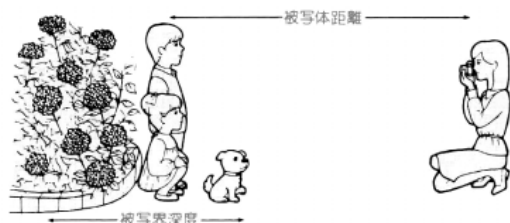


被写体の、ある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

ピントの合う範囲

絞り込むほど、広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。絞りを換えることによってピントの合う範囲[奥行]が変わります。

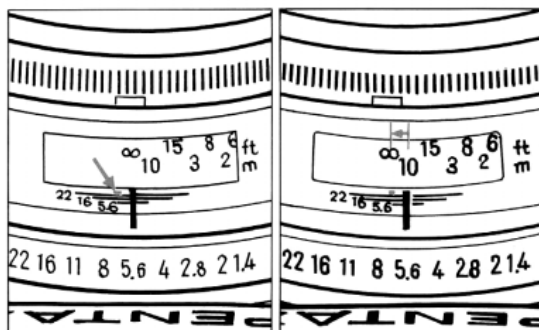
ズームレンズの被写界深度目盛は機構的に入っていないものもあります。



●絞りF1.4



●絞りF22



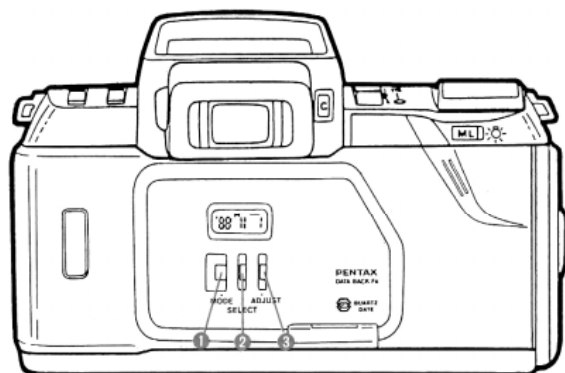
赤外線フィルムとR2やO2のフィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影〔可視光〕とピント位置が異なってくるため、ピント補正が必要です。

ファインダーでピントを合わせたときの距離目盛りを読み取り、レンズの距離リングを回し、赤外線指標の位置までずらして撮影します。

- レンズの距離リングを回すときは、必ず、**MANUAL**〔マニュアル〕フォーカスにします。

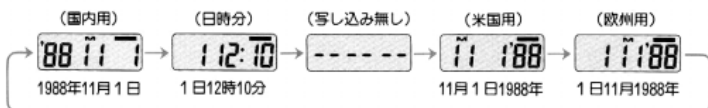
59

クォーツデートの使い方



※この写真の数字はハメコミ合成です。

- ① **MODE** モード：切り替えボタン
- ② **SELECT** セレクト：選択ボタン
- ③ **ADJUST** アジャスト：調整ボタン



データの写る部分に白や黄色の物が来ると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。

このクォーツデートは、工場出荷時に、おおむね正しい時間に合わせていますが、調整や電池を交換するときは62ページをご覧ください。

- ①の **MODE** ボタンを押して、日付けか時間を選びます。

- **M** は「月」の位置を表しています。
- **—** はシャッターを切ると点滅を続けて、日付けや時間が写し込まれたことを知らせます。
- 2019年までのカレンダーが記憶されています。
- 表示は撮影のたびに写し込まれます。
- **---** にすると何も写し込まれません。

データ修正

- ②の **SELECT** ボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅するところ移動しますので、修正したい数字を点滅させます。

点滅の順番

年月日表示のとき 年→月→日

時分 表示のとき 時→分→:

- ③の **ADJUST** ボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。

- **ADJUST** ボタンは一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2～3秒後から早送りされます。
- データの修正を行なうときは、コイン等をご使用ください。
- 数字は、次のように表示されます。

年 = 87 ~ 19	[1987 ~ 2019年]
月 = 1 ~ 12	日 = 1 ~ 31
時 = 0 ~ 23	分 = 00 ~ 59

「年月日」表示の修正

- ②の **SELECT** ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押して、点滅を止めます。

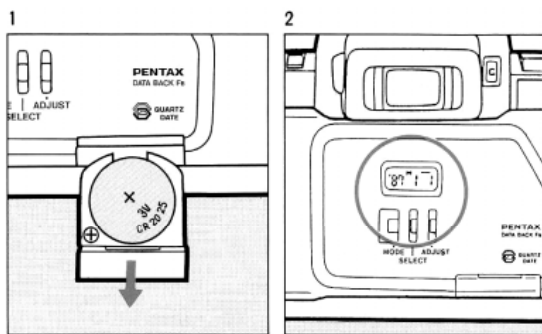
「日時：分」表示の修正

- ②の **SELECT** ボタンを押し、時分秒[:]表示のうち修正したい数字[秒は:]を点滅させます。
- ③の **ADJUST** ボタンを押して、数字を合わせます。
- 秒[:]を合わせるときは、③の **ADJUST** ボタンを押し、時報などに合わせて離すと0秒になります。
- 修正後は、②の **SELECT** ボタンを押し、点滅を止めます。

61

クォーツデートの使用上の注意

- 「年月日」と「日時：分」は同時に写し込めません。
- デートの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- 使用できるフィルムは、感度がISO 25～1600までのものです。
感度はカメラ側の感度設定により、自動的に合われます。
- 高感度フィルム[ISO 1000・1600]を使ったときは写し込まれる文字がにじむことがあります。
- ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- 修正途中[点滅表示]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- クォーツデートは、リチウム電池 **CR2025** 3V を1個使用します。
電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなったときは、新しい電池と交換してください。



クォーツデート用電池の交換

- SFXNの裏ぶたの電池ケースを矢印方向に引き抜いて電池を取り外します。
新しい電池の⊕側を上にして、電池ケースに入れ元の位置に「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- 電池を入れると、データが表示されます。表示が出ない場合は、電池の⊕⊖が正しく入っているかを確認してください。
[データ表示の修正は61ページをご覧ください。]
- 電池は必ず決められたリチウム電池 **CR2025** を1個使用します。